

1. 略歴

- 1977年3月 東京大学教養学部教養学科学士
1979年3月 東京大学人文科学研究科（露語露文学専攻修士課程）修士
1981年9月～1985年7月 ハーヴァード大学 Harvard University フルブライト全額給費奨学生として留学（スラヴ語スラヴ文学専攻博士課程）
1984年6月 ハーヴァード大学修士
1985年3月 東京大学人文科学研究科（露語露文学専攻博士課程）単位取得満期退学
1984年2月～1985年6月 ハーヴァード大学、ティーチング・アシスタント
1985年8月～1989年1月 東京大学教養学部、専任講師（ロシア語教室・教養学科ロシア分科）
1987年10月～1988年9月 ワルシャワ大学東洋学研究所、客員講師（日本語日本文学）
1989年1月～1994年3月 東京大学教養学部、助教授（ロシア語教室・教養学科表象文化論）
1994年4月～2004年3月 東京大学文学部、助教授（スラヴ語スラヴ文学）
2000年5月～11月 ロシア国立人文大学（モスクワ）、客員研究員（国際交流基金フェロー）
2002年10月～11月 モスクワ大学アジア・アフリカ研究所、客員教授
2004年4月 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授、現在に至る

2. 主な研究活動

a 専門分野

近現代ロシアおよびポーランド文学、現代日本文学を視野に入れた世界文学論、越境・亡命文学

b 研究課題

- (1) ロシア・東欧から日本までを視野に入れた形での新たな世界文学論へのアプローチ
- (2) ポスト共産主義時代のロシア東欧文学の総合的研究
- (3) ユーラシア研究という新たな枠組みの中でのロシア東欧文学の位置づけ
- (4) ロシア近代小説の研究と翻訳（特にチェーホフ、ナボコフ）
- (5) 近現代ロシア詩の読解と新しいロシア詩アンソロジーの編纂

c 概要と自己評価

（概要）興味と活動は近・現代文学全般にわたり、現代世界文学への比較文学的アプローチや現代日本文学の批評・時評も行なっているが、本来の専門領域はロシア文学およびポーランド文学（主として19～20世紀）である。1994年文学部に赴任して以来、スラヴ語スラヴ文学専修課程と並行して、西洋近代語近代文学専修課程の教育・運営に一貫して携わり、2007年4月に西洋近代語近代文学専修課程を改組した形で現代文芸論専修課程が創設されると、こちらに研究・教育の軸を移しながらも、スラヴ語スラヴ文学の専修課程の研究・教育活動にも引き続き関わってきた。またモスクワ大学およびワルシャワ大学との大学間交流協定の実施担当者として、東京大学とこれらの大学との研究交流および学生交換の世話役を一貫して務めてきた。

スラヴ文学の研究と並行して、「世界文学」の視点からできるだけ幅広く現代文学を（日本文学の特殊性と普遍性も視野に入れて）とらえるように努めている。一国一言語の枠内に収まらないような、亡命・越境・二言語併用などの問題に特に関心がある。

2008年4月からは現代文芸論研究室を中心とした科研費研究プロジェクト「グローバル化時代における文化的アイデンティティと新たな世界文学カノンの形成」の代表者として、現代の世界文学研究のための横断的な知のネットワークの構築に携わり、内外の研究者や文学者を積極的に招き、頻繁に講演会・セミナー・シンポジウムを開催してきた。

2013年3月3日・4日には、5年間にわたるこの科研費共同研究の総決算として、日本学術振興会より国際研究集会助成を受け、国際会議「グローバル化時代の世界文学と日本文学—新たなカノンを求めて」(World Literature and Japanese Literature in the Era of Globalization: In Search of a New Canon)を主に英語により開催し、内外から100名以上の研究者の参加を得ることができた。

ロシア東欧の専門分野における主要な関心の一つは、ソ連崩壊・東欧革命後の状況を文化史的にとらえることであり、その作業を通じて、因習的なロシア文学史の枠組みを変え、また文化の境界を見直す必要があることを主張してきた。またロシア文学における「詩的」なものの理論化を考えており、小説研究にこれまで偏ってきたため未発達な日本におけるロシア詩理解の基礎を固めるべく努めている。

海外（特にロシア東欧）と日本の文化・文学交流にも関心があり、国際交流基金や文化庁の様々な企画に協力し、ロシアや東欧の作家との交流や、日本文学の海外紹介といった事業にも積極的に参加している。最近では交流対象をアジアにも広げ、中国や韓国の研究者との交流も進めている。そういった機会にできた人的ネットワークも、研究・教育活動に活かしており、スラヴ研究における東アジアの研究ネットワーク構築を目指している。

2015年8月に千葉市幕張で開催された第9回国際中欧・東欧研究協議会（ICCEES）世界大会においては組織委員長を務め、世界49カ国から1300人以上の参加者のあった大規模国際学会の事務局の中心として中欧・東欧研究の国際的ネットワークの強化に努めた。

（自己評価）研究上の関心と活動範囲が年々広がっていき、またスラヴ語スラヴ文学と現代文芸論の両方の分野にまたがって研究・教育を行っているため、広い視野からのダイナミックな研究・教育活動を目指してはいるものの、研究のためのエネルギーと時間が分散して総花的になりやすく、それぞれのテーマについてきちんとしたまとめができないまま放置してあるものも多い。また年をとるに従って、引き受けざるをえない役職が多くなり、会議や事務的作業に多くの時間をとられる一方で、研究のための集中的な時間の確保がますます難しくなってきた。

そのうえ2015年8月に行われた大規模国際学会「第9回国際中欧・東欧研究協議会世界大会」の組織委員長を務めたため、大会終了後の事後的処理期間も含めて、大会前後の2年間以上にわたってエネルギーと時間をこちらに注ぎざるを得なかった。幸い、大会は成功裡に終了したが、そのため自分自身の著作活動が滞り、世界文学・スラヴ文学・日本文学についてすでに書き溜めた論考をまとめて単行本著書の形で世に問うことができない状態が続いている。とはいえ、2016年1月にはこれまでのチェーホフ研究のいちおうの決算というべき単行本『チェーホフ 七部の絶望と三部の希望』（講談社）を出版できたのは、一定の成果であった。

d 主要業績

(1) 著書

共著、沼野充義(他9名)、『人文知2 死者との対話』、東京大学出版会、2014.11

編著、沼野充義、『それでも世界は文学でできている』、光文社、2015.3

単著、沼野充義、『チェーホフ—七分の絶望と三分の希望』、講談社、2016.1

奥彩子、西成彦、沼野充義（共編）、『東欧の想像力—現代東欧文学ガイド』、松籟社、2016.1

(2) 論文

沼野充義、「失われた幼年時代（チェーホフとロシアの世紀末 1）」、『群像』、69-5、64-81頁、2014.5

沼野充義、「魅惑と嘲笑（チェーホフとロシアの世紀末 2）」、『群像』、69-6、248-265頁、2014.6

沼野充義、「「あなたに捨てられた美女」——カモメになりきれなかったリーカについて（チェーホフとロシアの世紀末 3）」、『群像』、69-7、244-254頁、2014.7

沼野充義、「仮面舞踏会の夜——あるいは人生が芸術を模倣することについて（チェーホフとロシアの世紀末 4）」、『群像』、69-8、306-319頁、2014.8

沼野充義、「戯れから愛へ——「下げ飾り」の行方（チェーホフとロシアの世紀末 5）」、『群像』、69-9、316-329頁、2014.9

沼野充義、「チェーホフとユダヤ人問題（チェーホフとロシアの世紀末 6）」、『群像』、69-10、237-251頁、2014.10
Mitsuyoshi Numano、「The Seagull Goes to the Cosmos, and Haruki Murakami Goes to Sakhalin」、『Japanese Slavic and East European Studies』、35、5-12頁、2014.10

沼野充義、「狂気と牢獄——狂っているのは誰か？（チェーホフとロシアの世紀末 7）」、『群像』、69-11、266-281頁、2014.11

沼野充義、「小さな動物園（チェーホフとロシアの世紀末 8）」、『群像』、69-12、277-282頁、2014.12

沼野充義、「動物園的<知>の展開（チェーホフとロシアの世紀末 9）」、『群像』、70-1、300-308頁、2015.1

沼野充義、「霊性の幸う国で——世紀末ロシアの信仰とオカルト（チェーホフとロシアの世紀末 10）」、『群像』、70-2、262-274頁、2015.2

沼野充義、「ハーヴァード大学におけるホレス・G・ラント教授による古代教会スラヴ語の授業」、『Slavistika』、30、19-30頁、2015.3

沼野充義、「ナボコフと「ソ連」文学——ナボコフ『ロシア文学講義』への補遺として（ナボコフが論じなかったロシア文学）」、『Krug』、7、42-51頁、2015.3

沼野充義、「革命の女たち（チェーホフとロシアの世紀末 11）」、『群像』、70-3、271-286頁、2015.4

沼野充義、「喜劇問題（チェーホフとロシアの世紀末 12）」、『群像』、70-4、308-324頁、2015.4

沼野充義、「サハリンへ！——両義性の島、サバルタンの植民地（チェーホフとロシアの世紀末 13）」、『群像』、70-5、272-288頁、2015.5

- 沼野充義、「病の歴史（チェーホフとロシアの世紀末 14）」、『群像』、70-6、2015.6
- 沼野充義、「ロシア人は村上春樹がお好き？—源氏物語から村上春樹まで ロシアにおける日本文学の受容」、『ユーラシア研究』、52、2-7 頁、2015.7
- Mitsuyoshi Numano、「The Role of Russian Literature in the Development of Modern Japanese Literature from the 1880's to the Present: Some Remarks on Its Peculiarities」、『れいこくさ』、6、333-341 頁、2016.3
- Мицүёси Нумано (沼野充義)、「Переводы В. В. Набокова и А. П. Чехова на японский язык: о необходимости нового перевода классики」、『Found in Translation: Transformation, Adaptation and Cross-Cultural Transfer』、195-200 頁、2016.3

(3) 書評

- エラスムス (沓掛良彦訳)、『痴愚神礼賛 ラテン語原典訳』、中央公論新社、『毎日新聞』、2014 年 2 月 23 日
- 村上春樹、『女のいない男たち』、文藝春秋、『毎日新聞』、2014 年 5 月 18 日
- 今福龍太、『書物変身譚』、新潮社、『毎日新聞』、2014 年 7 月 20 日
- パトリック・オウジェドニク、『エウロペアナ』、白水社、『毎日新聞』、2014 年 9 月 21 日
- ロナルド・ドーア、『幻滅—外国人社会学者が見た戦後日本 70 年』、藤原書店、『毎日新聞』、2015.1.25
- ウラジーミル・ソローキン、『氷』、河出書房新社、『毎日新聞』、2015 年 3 月 15 日
- 内田樹、『日本の反知性主義』、晶文社、『毎日新聞』、2015 年 5 月 3 日
- 村上春樹、『職業としての小説家』、スイッチ・パブリッシング、『毎日新聞』、2015 年 10 月 11 日 (日) 朝刊
- 亀山郁夫、『新カラマーゾフの兄弟』、河出書房新社、『毎日新聞』、2015 年 11 月 29 日 (日) 朝刊
- 温又柔、『台湾生まれ 日本語育ち』、白水社、『毎日新聞』、2016 年 1 月 31 日 (日) 朝刊
- ウンベルト・エコ、『プラハの墓地』、東京創元社、『毎日新聞』、2016 年 3 月 27 日 (日) 朝刊

(4) 解説

- 沼野充義、「短編「かえるくん、東京を救う」について」、村上春樹「かえるくん、東京を救う」英訳完全読解、8-12 頁、2014.7
- 沼野充義、「若者よ、混乱の向こう側に未来をつかみとれ」、文春文庫 池澤夏樹『氷山の南』、588-594 頁、2014.9
- 沼野充義、「短編「象の消滅」について」、村上春樹「象の消滅」英訳完全読解、8-12 頁、2015.1
- 沼野充義、「異星という形而上的な地獄—ストルガツキー兄弟の S F からゲルマンの映画へ」、『神々のたそがれ(アレクセイ・ゲルマン作品) 株式会社アイ・ヴィー・シー』、24-28 頁、2015.3
- 沼野充義、「差違と普遍性—現代チベット文学が切り拓くもの」、タクブンジャ『ハバ犬を育てる話』東京外国語大学出版会、255-263 頁、2015.3
- 沼野充義、「美酒と奇想—東欧ポストモダンの旗手、パヴィチを称えて」、ミロラド・パヴィチ『ハザール事典』(男性版および女性版)、457-463 頁、2015.11

(5) 学会発表

- 国際、Mitsuyoshi Numano、「Russian Literature in Japan: Translation, Reception, and Influence」、II International Conference on “METHODS OF TEACHING ORIENTAL LANGUAGES: ACTUAL PROBLEMS AND TRENDS”、Higher School of Economics (モスクワ、ロシア)、2014.5.14
- 国内、沼野充義、「ドイツ語圏中欧とスラヴ文化—フロイト、リルケ、カフカ」、日本オーストリア文学会、麗澤大学 (日本)、2014.5.25
- 国内、沼野充義、「ロシア人は村上春樹がお好き？ 源氏物語から 1 Q 8 4 まで—ロシアにおける日本文学の受容」、シンポジウム「ロシアの COOL JAPAN」、聖心女子大学(日本)、2014.5.31
- 国際、沼野充義、「村上春樹 vs. カラマーゾフ—現代日本の翻訳文化と世界文学」、IJET (International Japanese-English Translation Conference)、東京ビッグサイト(日本)、2014.6.21
- 国際、Мицүёси Нумано (沼野充義)、「Переводы В.В.Набокова и А.П.Чехова на японский язык: о необходимости нового перевода классики」、III Международный конгресс преводчиков художественной литературы、Библиотека иностранной литературы (モスクワ、ロシア)、2014.9.5
- 国際、Мицүёси Нумано (沼野充義)、「Киргизская литература в Японии: Манас и Чингиз Айтматов」、Aitmatov Literary Forum、Manas University, Bishkek(キルギス)、2014.9.30
- 国際、沼野充義、「羊、鼠、象、蛙—村上春樹における動物イメージと日本人の自然観」、国際シンポジウム「日本文化表現の多様性」、ワルシャワ大学(ポーランド)、2014.10.28
- 国際、Mitsuyoshi Numano、「Pasternak in Japan: Reception and Translation」、Poetry and Politics in the 20th Century: Boris Pasternak, His Family, and His Novel Doctor Zhivago、スタンフォード大学 (スタンフォード、アメリカ合衆国)、2015.9.30

国際、Мишүёси Нумано（沼野充義）、「К изучению истории «истории русской литературы» в Японии」、Международная конференция «Национальные истории русской литературы」、首都師範大学（北京、中国）、2015.11.24
国際、沼野充義、「ハルキ vs カラマゾフ—現代日本文学における「偉大なるロシア文学」の影」、台湾日本語文学 学術研討会、輔仁大学（新北、台湾）、2015.12.19
国内、沼野充義、「「ロシア人は好きだが、ロシアは好きじゃない」—ポーランドとその巨大な隣国のねじれた関係について（文学の例に基づいて）」、2015 年度フォーラム・ポーランド会議「ポーランドと隣人たち」、青山学院大学 アスタジオ、2015.12.22

(6) 啓蒙

沼野充義、「21 世紀のグローバル世界は教養とともに成熟する」、『グローバル時代の教養（名古屋外国語大学）』、10-27 頁、2014.3
沼野充義、「今あえてロシア文学の素晴らしさを語る—プーシキンからシーシキンまで、魂の温もりを求めて」、『JIC インフォメーション（JIC 国際親善センター発行）』、183、2-12 頁、2015.4
沼野充義、「世界文学全集はあなたがどう読むか、だ」、『Kotoba（集英社）』、20、44-47 頁、2015.6
沼野充義、「今、なぜ、海外文学は面白い？ 俯瞰する視点から読み解く」、『シュプール』、2016 年 1 月号、216-217 頁、2016.1
沼野充義、「「文化は政治よりずっと大事なものだ」—ウリツカヤ、アクーニン、マカレヴィチに聞く（インタビューと解説）」、『れにくさ』、6、497-513 頁、2016.3
沼野充義、「壮大な文芸大作の世界を数時間で楽しめるロシア映画」、『Kotoba』、23、106-109 頁、2016.3

(7) 会議主催(チェア他)

国内、シンポジウム「東京大学で一葉・漱石・鷗外を読む」、主催、東京大学文学部 1 番大教室、2015.2.22
国際、「第 9 回国際中欧・東欧協議会世界大会」、組織委員長、幕張メッセおよび神田外語大学（千葉県千葉市）、2015.8.3~2015.8.8
国内、「『ディブック』—記録映画上映とシンポジウム」、チェア、シンポジウム「『ディブック』—その成立と受容をめぐって」、東京大学文学部 1 番大教室、2016.2.6
国内、「世界文学村と愉快的仲間たち」、主催、東京大学文学部 1 番大教室、2016.2.22
国際、「東京国際文芸フェスティバル 2016」、チェア、特別対談 海外文学の愉楽（池澤夏樹、川上弘美）、アカデミーヒルズ、国立新美術館（東京六本木）、2016.3.2~2016.3.6
国内、「第 2 回 JLPP 翻訳コンクール授賞式およびシンポジウム」、チェア、シンポジウム「現代日本文学の翻訳——作家と翻訳家の対話」、日本近代文学館（東京都目黒区）、2016.3.11

(8) 総説・総合報告

沼野充義、「文学 2014 年（概観）」、日本文藝家協会編『文藝年鑑 2015』新潮社刊、2015 年版、8-15 頁、2015.6

(9) マスコミ

「«В Японии очень мало знают о реальных русских людях» Спецпроекты ЛГ / Звёзды мировой русистики / Наш человек в Японии」、『Литературная газета』、Литературная газета、2014.1.15
「ロシア文化人 勇気の言論——ウクライナ紛争の陰で」、『朝日新聞』、朝日新聞社、2014.9.23
「対話と批判 人文社会系の本質—中・東欧研究 千葉で盛大に世界大会」、『読売新聞』2015 年 9 月 12 日（土）夕刊 11 面、2015.9.12
「「文学」の枠を広げる画期的選考—ジャーナリストにノーベル文学賞」、『読売新聞』2015 年 10 月 12 日朝刊 11 面、読売新聞社、2015.10.12
「（ニュースの本棚）ノーベル文学賞の S・アレクシエービッチ 被災者の気持ちすくい上げ」、『朝日新聞』2015 年 11 月 15 日朝刊、朝日新聞社、2015.11.15
「小さな人々の声のみずから語り始めるとき—ノーベル賞を受賞したジャーナリスト、アレクシエーヴィチの仕事」、『図書』2015 年 12 月号、14-17 ページ、岩波書店、2015.12.1

(10) 翻訳

個人訳、Stanislaw Lem、"Solaris"、沼野充義、『ソラリス』、早川書房、2015.4

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義など

特別講演、湖北大学、仲南民族大学（武漢、中国）、「日本の詩と小説の世界」、2014.11
千葉商工会議所、「ユーラシア世界を知るための市民教養講座—ロシア東欧の文化と芸術」、2015.6~2015.7

かわさき市民アカデミー、「世界を旅する14 ポーランド・ツアー」、2015.10～2016.1
特別講演、群馬県立土屋文明記念文学館、「日本におけるロシア文学の翻訳と受容—二葉亭四迷から村上春樹まで」、
2015.10

(2) 学会

国内、第9回国際中欧・東欧研究協議会世界大会組織委員長、2013.2～
国内、日本ロシア・東欧研究連絡協議会 (JCREES)、代表幹事、2014.2～
国内、日本学術会議、連携会員、2014.10～
国内、日本スラヴ学研究会、会長、2015.6～
国内、日本ロシア文学会、学会大賞選考委員長、2015.10～